（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

2025 年度（令和 7 年度）学校評価自己評価表

神辺中学校区	校番	福山市立　神辺中　学校
	最終更新日	2026 年（令和８年）２月 10 日

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状
○校区合同で教材研究や交流を進められ、よりわかる授業を追求されている。 ○「生活につながる」「将来につながる」授業実践を続けている。 ●課題を共有し、引き続き生徒に寄り添い実態に応じた取組を重ねてほしい。 ●地域とのつながりを拡げてほしい。	○自分で目標を立て、友達と学び合いながら「考える、選ぶ、決める」経験を積み重ねることにより、「学びが面白い」と実感する児童生徒が増えてきた。 ○自分たちが学校を創る主体となり、試行錯誤しながら創意工夫することを楽しむ児童生徒の姿が見られる。 ●家庭学習時間が少ない。スマホやゲームの利用時間が長い。

育成する資質・能力	学びに向かう力　　コミュニケーション力
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	共に学び、共に支えながら、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒
中学校区として統一した取組等	○児童生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようになる。 ○児童生徒の、自己肯定感・自己有用感が高まるよう支援する。 ○校種、教科・領域をこえた合同研修等を行う。

Ⅲ　自　校

ミッション
社会の中で活躍でき、貢献できる社会人となるための基礎力の育成

学校教育目標
「よりよく生きる力の育成 ～主体・自律・奉仕・信頼～」

現　状
＜生徒＞ ・「授業で、新しいことを知ったり問題を考えたりすることが楽しい。」 肯定的評価 82.1%、市平均 83.9% ・「授業で、友だちの考えを聞いたり友だちと話し合ったりすることが楽しい。」 肯定的評価 90.7%、市平均 91.8% ・「読書が好き」　肯定的評価 59.8%、市平均 61.8% 【「第三次福山市教育振興基本計画」指標最終ｱﾝｹｰﾄより】 ＜教職員＞ ・「仕事にやりがいを感じている」　肯定的評価 93.3%、市平均 90.6% ・「学校内の活動について、失敗を恐れずに挑戦することができている」 肯定的評価 86.3%、市平均 83.6% 【「第三次福山市教育振興基本計画」指標最終ｱﾝｹｰﾄより】

育成する資質・能力		A　学びに向かう力　　B　コミュニケーション力　　C　課題設定・解決力
めざす子ども像	１年	A　基礎的基本的な力を身に付ける中で、興味関心が向くことを見つける。 B　他者と自分の考えの相違に気をつけて聴き、筋道を立てて伝えることができる。 C　物事について、多面的にとらえる中で課題を発見し、解決することができる。
	２年	A　興味関心が向くことについて、自分自身で調べたり発表したりすることができる。 B　他者と対話する中で、意見の内容をまとめ、自らの考えを伝えることができる。 C　課題について、他者の意見や助言の中で、与えられた課題を解決できる。
	３年	A　興味関心のあることだけでなく、調査する中で、新たに考えを広げたりできる。 B　他者と対話し交流する中で、新たな発見や意見に気づき、良好な関係をつくる。 C　与えられた課題だけではなく、自ら適切にテーマを設定し、解決できる。

研究		
	テーマ	主体的に学ぶ生徒の育成　～伸びの実感を全生徒に～
	内容等	○義務教育９年間を見通した上で「何のために学ぶのか」「何を学ぶのか」を明確にした単元・授業づくりを行う。 ○学んだことを活かしたり、生活体験と結びつけたりし、自分の考えをまとめ整理して発表する機会を設定する。 ○問われていることの本質を捉える力を育成する。
めざす授業の姿		・校内研修の充実（校内授業研究、校区研修、教科指導研修等） ・基礎学力向上に向けた取組（「学びたい」と思えるような授業づくり） ・各種調査結果の分析（結果分析取組シートの活用） ・学習規律の徹底とＩＣＴ関連機器の適切な活用 ・家庭学習の定着（復習と予習の往還）

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　神辺中　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	ﾌﾟﾛｾｽ評価	達成評価	総合評価	改善方策
４	１ 学習者主体の学びを実現する ※学力向上に向けて「伸びの実感」を入れる	１	継続	・生徒が何のために学ぶのか何を学ぶのかを明確にした授業を実施する	・生徒が何のためにこの学びを行うのかを把握したうえで学習を進める。学習のキーワードを伝える。 ・「〇〇とは？」という問い（めあて）に対する振り返りを行う。めあてを明示した授業を実施する。 ・予習を組み込んだ授業を実施する。	・アンケートの結果の分析 「伸びを実感した」生徒の割合８５%以上 ・定期試験の通過率４０%未満の生徒の割合３０%未満	□アンケートの結果から、「伸びを実感した」生徒の割合は全教科を平均して84% □定期試験の通過率 40%未満の生徒の割合22% □現状把握のために、定期試験の通過率を調査したり、夏休みに補習を組んだりするなど行った。	３	３	・伸びの実感が80％に満たない教科を中心に、学ぶ意義を再確認できるような問いを設定する。学級担任、教科担当で学力調査結果をふまえて 40%未満の生徒を把握し補充学習を仕組む。また、予習を取り入れる。 ・定期試験の通過率について２０％未満の生徒を減少させる。そのために、各教科で「書く」問題に取り組むなど、基礎基本の学習を繰り返す。	◎アンケートの結果から、「伸びを実感した」生徒の割合は全教科を平均して84% ◎定期試験の通過率 40%未満の生徒の割合 １年（４３%） ２年（２０%） ３年（１８%） □取組みを行った教科に関しては、成果が上がっている。 □授業で学習した内容について、実生活とつながっている実感が持てる授業づくりを進めた。7月から12月で肯定的な評価が全教科でプラスとなった。	３	３	３	・５教科においては、授業の終わりに５分程度の基本問題に取り組ませ、「できる」「わかる」場面の設定を行う。 ・1年生は特に、社会（４２%）数学（４７%）英語（５０%）の教科に課題が見られた。 〇校内研修を基盤とした授業力の向上を図る。 〇授業と宿題を循環させ、基礎基本の定着を図る。

1	2 自己指導能力の育成をめざす	2	新規	・委員会や学習係、掃除当番など、様々な役割に対して責任をもって最後まで取り組むことができる生徒の育成を目指す ・生徒一人一人の基本的な生活習慣の確立を目指す	・委員会・係活動などについて見直しを行う。 学級の中にある役割について、各クラスで確認を行う。 ・生徒会を中心に、委員会や係活動に取り組めるような仕掛けを行っていく。 ・遅刻してきたい生徒に対して、聞き取りや指導、適切な保護者連携を行う。	・「委員会活動や係活動、給食当番、掃除などに積極的に参加している」の肯定的評価８５%以上 ・７つの生活目標のうち「就寝と起床の時刻を決めて守れている」（「朝ごはんを食べる時間を決めて守れている」）の肯定的評価８５%以上	・アンケートの結果より、「委員会活動や係活動、給食当番、掃除などに積極的に参加している」の肯定的評価の割合は94% ・アンケートの結果より、「就寝と起床の時刻を決めて守れている」割合73% 「朝ごはんを食べる時間を決めて守れている」）の肯定的評価の割合80% □地域の各箇所に定期的に立って、交通ルールマナー等を守れるよう指導した。	3	2	・体育大会などの行事において、一人一人に役割を持たせやり切らせることで生徒の達成感につなげていく。 ・望ましい生活リズムについて、考えさせる時間を設定する。また、自己の生活を振り返るために「７つの生活目標」シートを再度確認する時間を設ける。	・アンケートの結果より、「委員会活動や係活動、給食当番、掃除などに積極的に参加している」の肯定的評価の割合93% ・アンケートの結果より、「就寝と起床の時刻を決めて守れている」肯定的評価の割合74% 「朝ごはんを食べる時間を決めて守れている」）の肯定的評価の割合78% □地域の各箇所に定期的に立って、交通ルールマナー等を守れるよう指導した。	3	2	2	・学級の中で委員会活動や係活動、様々な役割がなぜあるのかまた、なぜ行う必要があるのかを再度考えさせる取組を行う。 ・生徒会を中心として基本的な生活習慣の確立を生徒が主体となって行うことができる取り組みを仕組む。
1	3 地域貢献できる生徒の育成をめざす	3	新規	・地域を大切に思う生徒の育成を目指す	・総合的な学習の時間で地域とつながることを意識したカリキュラムの実施を行う。 １年ばら ２年職場体験 ３年カンスト ・学区民運動会、中条駅伝への参加やカンスト、ふれあい祭りの運営を行う。	・「地域の行事や学校のボランティア（奉仕活動）に参加したことがある」生徒の割合８５%以上	・アンケート結果より、ボランティア活動へ３回以上参加した生徒の割合（33.2%） ２回参加した生徒の割合（13.2%） １回参加した生徒の割合（17.7%） □ばら園への清掃活動など生徒会を中心に呼びかけを行った。	3	2	・地域との関わりを積極的に設定する。新規で参加しやすいようなばら園整備を中心に、地域行事の開催周知などを行う。 ・すぐーる等を活用し、保護者から生徒への周知を行う。	□ばら園を活用した清掃活動やアンネのばら植樹などを行った。 SDGｓを意識した「カンスト」への参加を行った。 ◎「地域のボランティア活動に参加したことがある」肯定的評価の割合は 37%だった。	3	2	3	総合的な学習の時間について「地域」を中心とした一貫したカリキュラムの作成を行い、担当者会を開催し次年度に向けて協議を行う。 ばら園を地域と学校をつなぐものとして、有効活用を続けていく。

７	４ 信頼される学校づくりを推進する	３	継続	・開かれた学校を目指し、確かな情報を公開できるよう取り組む ・地域について知り、地域を大切に思う生徒を育成する ・不祥事を起こさないよう取り組む	・ホームページを更新したり、学年学級通信等で情報を公開したりする。 ・地域の方とかかわる機会を設けて、良い所や課題や改善点を見つけられるような学びをつくる。 ・不祥事防止委員会を活用して、内容について職員へ周知を行う。	・保護者アンケートから、「学校の様子がよくわかる」と回答する保護者の割合を昨年度以上（昨年度75.8%） ・「地域について知り、地域を大切に思っている」生徒の割合 85%以上。 ・不祥事防止委員会で話し合ったことをもとに、職員研修を月に1回程度行う。	・保護者アンケート結果より、「学校の様子がよくわかる」(11.9%)、「わかる」(31.5%)と回答した。定期的な HP の更新やすぐーるの更新を行った。 ・地域を大切にしていると回答した生徒は86.2%だった。 □不祥事を起こさないために、定期的に学年が担当して研修を行っている。	３	２	・学校の様子について、引き続き情報発信を続ける。参観週間や学校行事の情報を保護者や地域へ知らせ、来ていただけるよう仕組む。 ・授業の中でゲストティーチャーとして地域人材を活用している。引き続き、学校外の人材を活用していく。 ・不祥事防止委員会では、「自分事」としてとらえるよう仕組んでいく。	□月に１度はホームページを更新し、行事があれば、案内を出した。 PTA の主催で、地域に対して制服等のリユース品の提供を依頼した。 ◎保護者アンケートから、「学校の様子がよくわかる」肯定的評価の割合は71.5%だった。 「よくわかる」18.6% 「わかる」52.9% ◎地域ついて知り、地域を大切に思っている生徒の肯定的割合は87%だった。 ◎不祥事防止研修では、飲酒運転の防止、SNS 等のネットトラブル防止、個人情報保護の研修を行った。	３	２	３	30%程度の保護者が学校様子が「わからない」と回答している現状を踏まえて、学校へ行こう週間や参観授業を定期的に開催するなど、家庭や地域などに開かれた学校をめざす。 不祥事防止研修では、各回でアンケートをとり全職員で確認できるようにする。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０%以上１００%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０%以上８０%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０%以上６０%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０%未満の達成度	目標を達成できなかった。